

## 第 11 期食品成分委員会の調査事項の進捗状況について

第 20 回食品成分委員会資料 5「食品成分委員会について（令和 3 年 8 月 27 日資源調査分科会）」の 2 調査事項についての(1)日本食品標準成分表の次期改訂への検討に記載の事項に関する進捗状況は以下のとおり。

1. 日本食品標準成分表の次期改訂方針やあり方について
  - ・日本食品標準成分表 2020 年版（八訂）からエネルギー産生成分の取扱いが変更されたこと等を踏まえ、まずは既収載食品の未収載成分の充実を優先。
  - ・今後の課題として、現在構築中の次期データベースおよび収載値検討システムを踏まえた次期改訂方針やあり方に関する検討が必要。その際に、多様な利用に対する食品成分データの提供や関係者との連携の検討が必要。
  
2. 収載食品の更新・充実について
  - (1) 食品分析について
    - ・R3 年度の食品分析に関する委託事業を実施。
    - ・R4 年度の食品分析に関する委託事業を実施中。  
また、分析に当たっては AOAC.2011.25 法による食物繊維の分析を優先。
    - ・R5 年度の分析食品リスト案を検討。  
リスト案作成にあたってはアミノ酸組成、脂肪酸組成などの未収載成分を優先して検討。
  - (2) 収載食品・成分の充実
    - ・過年度（H31、R2、R3）分析された食品について収載値（案）を食品成分委員会で検討し R4 年度中に公表予定。
  
3. 食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上
  - (1) デジタル化について
    - ・R3 年度の委託事業により、分析データの受入れから収載値案の検討、外部へのデータ提供の一貫体制を念頭にした日本食品標準成分表の次期データ

ベースの基本設計等を検討。

- ・R4年度の委託事業により過年度の分析データのデータベースの構築および収載値の検討に関するシステム化（データ構築手法の整理等）を検討。

(2) 新規収載値の公表について

- ・ドラフト版としての公開条件を満たしつつ、産生成分の追加によるエネルギー等既収載値の変更に配慮した公表方法を検討し、第22回食品成分委員会（令和4年10月18日）に決定。

(3) 英語版の作成および多言語利用について

- ・R4年度の委託事業により成分表2020年版（八訂）の英語版の作成および多言語利用に関するアプリケーションの調査を実施中。

4. 国内外動向調査について

(1) 国内での食品成分の利用状況について

- ・R4年度の委託事業により国内における成分表の利用状況等について調査中。

(2) 外部からの食品分析データの受入れについて

- ・成分表の収載成分の増加および産生成分の変更に対応した受入れ方法の見直しを検討し、第21回食品成分委員会（令和4年6月21日改訂）としてHPで公表。

5. その他、日本食品標準成分表に関連する事項について

- ・日本食品標準成分表2020年版（八訂）分析マニュアルを令和4年2月に公表（[https://www.mext.go.jp/content/20220222-mext\\_kagsei-index\\_100.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20220222-mext_kagsei-index_100.pdf)）